

株式会社バンダイナムコフィルムワークス

2026年3月3日

**バンダイナムコフィルムワークス、グループ内制作会社の連携促進と、
製作・制作・配給の専門分化を通じて映画事業の強化・拡大へ**

TOPICS

- ◆グループ内アニメ制作会社との強力タッグで多彩な劇場作品を続々展開
- ◆製作・制作・配給の専門分化と連携でスピーディーに対応可能な組織体制へ
～新設の「映画配給部」ゼネラルマネージャーに聞く手ごたえと今後の展望～

日本における映画の市場規模は、2025年に興行収入2744億5200万円で歴代最高を更新し、2024年には輸出実績も過去最高の5億4千万ドルを記録するなど国内外で成長しており、そこにはアニメ作品が大きく貢献しています。*1

当社を筆頭にバンダイナムコグループ映像音楽ユニット*2では、2025-2027年度中期計画の重点戦略の1つに「映画事業の強化・拡大」を掲げ、グループ各社と連携しながらより多彩な作品を展開、また、映画配給部門設置による自社配給の強化や、実写プロダクション室の設置による実写映画の自社制作など、様々なアプローチで重点戦略を推進しています。

*1 出典：日本映画産業統計（一般社団法人 日本映画製作者連盟）

*2 バンダイナムコグループにおいて映像音楽（アニメーションなどの映像・音楽コンテンツの企画・製作・運用、著作権・版権の管理・運用、アーティストの発掘・育成、ライブエンターテインメント事業）を担う事業会社の集合体

◆グループ内アニメ制作会社との強力タッグで多彩な劇場作品を展開

バンダイナムコグループが掲げている、IP価値の最大化を図る「IP軸戦略」において、当社はその基盤となる映像と音楽を統合的に扱う「映像音楽ユニット」の事業統括会社として、ユニット内の連携を促進、パフォーマンスの最大化を図っています。ユニットにはバンダイナムコフィルムワークスのSUNRISE Studios（サンライズスタジオ）、バンダイナムコピクチャーズ、アクタス、エイトビットという個性豊かなアニメ制作会社が存在しており、それぞれの強みを活かした様々なジャンルの作品展開を行っております。

・ガンダムシリーズ



当社が製作および配給にも携わっている映画『機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ キルケーの魔女』は、自社アニメ制作スタジオ SUNRISE Studios がアニメ制作を手掛けており映像表現・重厚なドラマとキャラクター描写の深さが高く評価されハードでリアリスティックな戦闘演出とキャラクターたちの繊細な会話劇・心理描写が話題を呼び、公開29日間（1月30日～2月27日）で興行収入22.4億円、観客動員134万人を突破し2021年に公開された前作、『機動戦士ガンダム 閃光のハサウェイ』の最終興行収入22.3億円を超え、今もなお大ヒット上映中です。

ガンダムシリーズは2029年の50周年に向け、今後もさらなる高みを目指して様々な作品をお届けしてまいります。

公式サイト：<https://gundam-official.com/>

・「銀魂」シリーズ



バンダイナムコピクチャーズの作品ブランド“BN Pictures”がアニメ制作を手掛ける「銀魂」シリーズ最新作『新劇場版 銀魂 -吉原大炎上-』は、当社も配給に携わり連携することで、長く愛される IP をより最適な形でファンの皆様にお届けできる体制を構築しています。原作の魅力を最大限に引き出したハイクオリティな映像表現と、ファンと共に作品を盛り上げるプロモーション展開が功を奏し、2月13日(金)の公開から3週目となる3月1日時点で、興行収入10億円、観客動員70万人を超える大ヒットとなっています。

※本作はワーナー・ブラザーズ映画、バンダイナムコピクチャーズ、バンダイナムコフィルムワークス、アニプレックス配給

公式サイト:<https://www.warnerbros.co.jp/shingintamamovie/>

・「転生したらスライムだった件」シリーズ



エイトビットがアニメ制作を手掛け、当社が製作に携わる「転生したらスライムだった件」シリーズも、制作を担当するエイトビットと当社の事業部門が密に連携し、作品の魅力を最大化する効果的な戦略を展開することで、長く愛される人気IPとなっています。当社が配給する劇場版の第2弾となる『劇場版 転生したらスライムだった件 蒼海の涙編』は、2月27日(金)の公開から3日間で観客動員数約22.5万人、興行収入3億円を突破しました。また、4月からはTVシリーズ第4期がスタートするなど、ファンの皆様のご期待に応えるべく、継続した作品展開を行っています。

公式サイト:<https://movie02.ten-sura.com/>

・「ガールズ&パンツァー」シリーズ



アクタスがアニメ制作を手掛け、当社が製作に携わる「ガールズ&パンツァー」シリーズは、アクタスの強みであるハイクオリティで迫力のある映像と魅力的なキャラクターが多くのファンを惹きつける人気シリーズです。2025年には公式スピノフコミックが原作の『ガールズ&パンツァー もっとらぶらぶ作戦です！』(P.A.WORKS、アクタス制作)を全4幕で公開、2026年には『ガールズ&パンツァー 最終章』第5話の劇場上映が決定しています。高品質な映像制作と、ファンの皆様に愛し続けていただくための継続的かつ戦略的なプロモーション展開により、IP 価値のさらなる向上を図っております。

公式サイト:<https://girls-und-panzer-finale.jp/>

また、「銀魂」映画シリーズ、「転生したらスライムだった件」シリーズや「ガールズ&パンツァー」シリーズは、バンダイナムコミュージックライブとも連携し、映像と音楽の両輪でIPの価値最大化を行っています。

このほかにも、オリジナル劇場アニメーション『パリに咲くエトワール』(3月13日(金)～)、『ラブライブ！蓮ノ空女学院スクールアイドルクラブ Bloom Garden Party』(5月8日(金)～)、『機動警察パトレイバー EZY(イズイー)』(5月15日(金)～)を、夏には『新劇場版☆ケロロ軍曹 復活して速攻地球滅亡の危機であります！』の公開を予定しており、今後も多彩なラインナップで劇場作品をお届けしてまいります。

◆映画配給部門の設置による配給事業の強化

映画事業の強化・拡大のため、今期から映画配給に特化した部門を設置しました。重点的に取り組んだことや手ごたえについてマネジメント事業本部 映画配給部の長谷川裕介ゼネラルマネージャーに聞きました。

・映画配給部の設立と手ごたえ

当社は2019年から配給事業を始めておりますが、これまでは映画事業部として配給、プロモーション、実写企画プロデュース・制作など映画事業に携わる全てのチームが一部門にまとまっていた。今年度からは重点戦略の一つである「映画事業の強化・拡大」をより推進するため、実写制作は実写プロダクション室として制作部門へ、配給は専門部隊として「映画配給部」へと組織拡大しました。それぞれの事業領域に合わせ、これまでよりもさらに各担当に対する成果の明確化や、スピーディーな組織運営ができる体制となっています。

今年度の成果としては、両部門がそれぞれの強みを活かし、自社 IP のラブライブ！シリーズ初の実写映画『Aqours Documentary』を公開し、ファンの皆様からも高評価をいただきました。また、ショートアニメ版が YouTube 総再生数 2.5 億回を突破するなど大きな話題を呼んだ『銀河特急 ミルキー☆サブウェイ』の劇場版『銀河特急 ミルキー☆サブウェイ 各駅停車劇場行き』の展開においては、作品を担当する事業部とのスピーディーな連携で、製作から配給までの一気通貫体制が大きな強みとして発揮されました。結果、週末動員ランキング 初登場 4 位 のヒットスタートとなり、2 月 6 日(金)の公開から 3 週間で興収4億円突破するなど、短尺 46 分の劇場編集作品としては非常に大きな実績を残しています。



・バンダイナムコフィルムワークスが保有するライブラリ作品や自社 IP の活用

当社の強みでもある豊富なライブラリタイトルや、長くファンに愛されてきたレジェンド作品を、映画館という最高の環境で提供する取り組みに注力しています。今年度は Dolby Cinema®版『新機動戦記ガンダム W Endless Waltz 特別篇』(1997)や、『ラブライブ！サンシャイン!!The School Idol Movie Over the Rainbow』(2019)を4DXで、また、公開 25 周年記念として『劇場版カードキャプターさくら 封印されたカード』(2000)を上映するなど、IPの周年イヤーをリアルな場で楽しむ場として、多くのお客様にお楽しみいただきました。当時のファンはもちろん、配信などで作品のファンになり、その当時は映画館で観ることができなかった方々にも来場いただくなど、ライブラリ作品の価値向上にもつながっています。

・今後の展望

現在、日本の映画公開本数は年間約 1300 本にのぼり、週 20 本が新たに公開されていく厳しい市場です。当社の強みを活かし、各事業部、宣伝チームと連携し、認知拡大と期待値醸成に注力することが不可欠です。現在、SNS 等様々なタッチポイントによるプロモーションも強化しており、当社の作品を「ファーストチョイス」に押し上げるため、今後も様々なチャレンジをしてまいります。

また、引き続き映画館ならではの体験価値とイベント性の強化をおこなっていきます。IMAX®・4D・Dolby Cinema®等のラージフォーマット、応援上映など空間体験の付加価値を最大化し、ファンに寄り添った配給企画を進めていきたいと思っております。



株式会社バンダイナムコフィルムワークス マネジメント事業本部 映画配給部

ゼネラルマネージャー 長谷川裕介(はせがわ ゆうすけ)

2019年に株式会社バンダイナムコアーツ(現バンダイナムコフィルムワークス)に入社。前職では映画配給会社で配給業務に従事。その経験を活かして入社後は配給事業の立ち上げを行い、その後も自社作品の全作品の公開に関わる。2025年よりバンダイナムコフィルムワークスに新たに設置された映画配給部のゼネラルマネージャーとして配給の統括を担う。

バンダイナムコフィルムワークスでは、映画事業を当ユニット各社が生み出すハイクオリティな映像や音楽を、世界中のファンへお届けするための非常に重要なコンテンツと捉え、今後もクリエイティブとビジネスの連携で様々な作品を展開してまいります。是非ご期待ください。

株式会社バンダイナムコフィルムワークス



株式会社バンダイナムコフィルムワークスは、映像作品を企画、製作し、テレビ、映画、配信など様々なメディアを通してお届けするだけでなく、著作権・版権の管理運用、映像関連商品の企画・販売や映像関連サービスを通して、世界中の皆様幅広く発信しております。川上から川下まで担う総合映像エンターテインメント企業として、“いいもの”を生み出し、しっかりと皆様にお届けし続けてまいります。

主な事業内容

アニメーションなどの映像コンテンツおよび映像関連サービスの企画・製作・販売および著作権の管理・運用

<https://www.bnfw.co.jp/>

【著作権表記】

©創通・サンライズ ©空知英秋／劇場版銀魂製作委員会 ©川上泰樹・伏瀬・講談社／転スラ製作委員会

©GIRLS und PANZER Finale Projekt ©Aqours Documentary ©亀山陽平／タイタン工業